

国際公共政策研究科博士後期課程カリキュラムマップ

	高度な専門性と深い学識	教養	国際性	デザイン力	1年		2年		3年	
					春・夏学期	秋・冬学期	春・夏学期	秋・冬学期	春・夏学期	秋・冬学期
法律学・政治学・経済学における最先端かつ高度な専門的能力を身につけている。	○									
<p>著者の問題意識、方法論、分析・論証及び結論が論理的に構築された博士論文が、①新規性、②継承性、③実証性、④論理性、⑤明確性を備えたうえで、専攻分野における高度の学術的価値を有している</p> <p>独立した研究者として研究を遂行する学力・能力をもち、今後、一定水準の学術的価値をもつ論文その他の知的生産物を継続的に公表していくことができる</p>	○				法律系 国際法文献講読Ⅰ 国際法文献講読Ⅱ 国際法判例研究 International Law 1 International Law 2 EU法 EU域内市場法 法政策学 国際取引法Ⅰ 比較憲法論 現代私法論 など	政治系 国際関係論の理論と方法 外交論 国際連合システム論 ナショナリズム論 International Relations of East Asia History and Grand Strategy Agenda-Setting 多文化共生論 アメリカ外交論 アフリカの政治と紛争など	経済系 Microeconomic Theory Macroeconomic Theory Econometric Methods Advanced Econometric Methods ミクロ経済分析Ⅰ・Ⅱ 経済数学 マクロ経済分析 労働経済学の実証分析 現代財政システム論 開発問題の計量分析 人材配置の経済学 行動経済学 経済学の理論と実証Ⅰ・Ⅱ 公共政策 ワークショップⅠ・Ⅱなど			
法学、政治学、経済学以外の学問分野にも広く通暁し、それを高い次元で理解している		○								
様々な学問分野の知識とその理解を基盤とした高度な複眼的思考力を身につけている。		○								
世界の人とコミュニケーションする高度な能力を身につけている。			○							
各国の歴史・文化等に由来する多様な価値観を深く理解し、国際社会の一員として共生できる高度な能力を身につけている。			○							
自己の主張を明瞭・平明に記述し、明解なプレゼンテーションを行うことができ、また、専攻分野の研究者と対等に討論する能力を身につけている				○	応用・展開系科目 総合安全保障 国連安保理研究ワークショップ 政策研究デザイン			12月 進捗状況報告会	博士論文執筆 (12月口頭報告 審査会)	最終 試験
高度な学問的修練に基づいた分析手法の下に、公共利益の観点から国際的問題や日本の社会システムに関わる現実の問題に対して、解決のための政策提言をする能力を身につけている				○						

・ 単位互換制度
・ 国内外の学術交流協定締結校